

# 令和3年度 第3回 (確定稿) 西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録

■日 時:令和3年9月14日(火)18時00分~19時30分  
■会 場:オンライン(Zoom)

## 1. 報 告 事 項

- (1) 業務報告(令和3年7月・8月)について(資料1)
- (2) コーディネート状況月次報告(資料2)、コーディネート実績表(資料3)
- (3) 業務予定(令和3年9月・10月)について(資料4)
- (4) 夏!体験ボランティア西東京2021についての報告(資料5)

○事務局より、(1)~(4)について資料を用い説明を行った。

【副委員長】 資料2のコーディネート状況のところでは夏休みを利用してボランティア活動を希望する人がいたようだが、中学生以上の方か。

【事務局】 夏休みというわけではなくコロナ禍でという人がいた。

【事務局】 大学で社会福祉を学んでいる学生が実習に行く前にボランティアをしてくるよう大学から言われたという学生もいた。コーディネートの状況だが今年度は令和元年度の数に比べ少なくなっているが、理由としては高齢者施設や夏祭りのような地域のイベントでのボランティア活動がなくなっているからである。

【委員】 夏体験ボランティアの対象は学生だと思うがボランティア終了後にアンケートなど取る予定はあるのか。

【事務局】 夏体験ボランティアは学生に限らず参加でき、例年通りにアンケートもお願いしている。今までは参加者に広報誌「ぼらんていあ倶楽部」を送り、まだアンケートの出していない人にはアンケート用紙も同封している。

## 2. 審 議 事 項

- (1) 令和3年度第2回西東京ボランティア・市民活動センター運営委員会要点記録(未定稿)について(事前送付)

○事務局より、9月17日までに修正をいただき完了したものを確定稿とする。

## 3. 協 議 事 項

- (1) ボラフェス(ボランティアのつどい)について(資料6)

【副委員長】 事務局から説明をお願いします。

【事務局】 7月の運営委員会で今年度のボランティアのつどいをどのようにするのか運営委員の皆さま

んからいただいた意見をまとめてみた。令和3年度は田無総合福祉センターを利用したイベントではなく印刷物を作成し配布していくことを考えている。ボランティア活動の周知、理解、促進を目的としている。配布の対象は前回の運営委員会で小学校高学年から中学生をターゲットにしたら良いのではないかと意見をいただいた。来年度の夏の体験ボランティアにもつながるように狙いを定めている。どのような内容でどのような形式の冊子を作っていくか、たくさんの意見をいただきたい。

- 【副委員長】 来年度の夏の体験ボランティアにつながるように配布していくということですね。掲載の内容と体裁ですが対象者に伝わりやすいようにするための意見をいただきたい。
- 【委員】 高齢者施設では子供たちが来て話しをしてくれることが高齢者にとって嬉しいことなので特別な何かをするのではなく、一緒にたたみ物をするなどワイワイおしゃべりすることが喜ばれる。
- 【副委員長】 中学生も高校生も来てくれるだけで嬉しいが何かをしながら話しをする方が活動しやすいのではないか。
- 【委員】 過去に職場体験で中学生が来たことがあるが手持ち無沙汰になってしまったり、高齢者に話しかけるのは勇気のいることになってしまい、手仕事のようなものを一緒に行うことが多くなっている。
- 【副委員長】 何かを一緒に行いながらおしゃべりをするのはとても自然な流れで良いのではないか。
- 【委員】 配布物の内容としてはイメージがわかりやすい内容の方が活動先へ行って何をしたらよいか不安になることが無いのではないか。
- 【委員】 福祉教育の面から考えると、様々なボランティア活動を幅広く知ってもらおうという内容を掲載するのも良いのではないか。私の障がい者施設では今まで小・中学生が参加出来るメニューを用意していなかった。福祉教育の中で障がいについて当事者が話をする事は出来るが、訓練の様子を小・中学生に見てもらっても理解できないのではないか。ボランティアではないがイベントなどで障がい者と関われる機会があれば良い。
- 【事務局】 最近、ボランティアセンターには障がい児・者に関わる相談が増えてきている。小学校での見守りや在宅障がい者の付き添いなどがある。障がい者理解は必要であると考えている。
- 【委員】 防災に関わるグループでは先日、新規メンバーが加わったので目黒巻を行った。目黒巻とは災害時をイメージして、自分はどこにいて何分後にどのような動きや対応を書くかを書くというもので小・中学生がどれだけ学習しているのか、どのように伝えていけばよいかと思っている。
- 【委員】 防災について行っている小学校もある。社会科の授業にもあるので4年生は身近な災害として河川氾濫をテーマにハザードマップを利用し大雨が降ったらどうするのかを考える授業を計画している。5年生は日本全体の防災について取り上げることが多い。今年4月から生徒一人に1台のタブレットが配布され2学期はオンライン授業も始まった。子供たちもかなり慣れてきている。ボランティアで高齢者や障がい者に関わるのは実際に会うことが基本だと思うが、コロナ禍で人と会うということに子供たちも危機感を持っている。この状況を逆手に取りオンラインで話をする機会を作ると新たなボランティアの形になるのではないかと感じた。ボランティアのアピールの仕方としては文字よりもイラストのようなものが印象に残るのではないか。
- 【事務局】 他市ではオンラインを活用し動画で福祉教育を行っているところもある。
- 【副委員長】 例えばチラシにQRコードを付けて読み込むと動画が見られるようにすることは出来るのか。
- 【事務局】 動画を作り配信していくことは可能だと思うが、マンパワーがあるかが問題。
- 【副委員長】 子供たちは今、そういう世界で生きているのでそれも一つの方法ではないか。

- 【事務局】 動画の配信は来年度の目標として、そのきっかけとなる紙面を今年度は作っていくのはどうか。
- 【理事】 小学校高学年から中学生を対象とするのであればボランティアとは、ということが分かりやすく書かれている方がよい。ノブレス・オブリージュというか自分自身の能力を社会のために使うという考え方を理解してもらえるとよい。紙面に自分の好きなこと、得意なことは何か、という問いに記入できるようにすると自分自身を考えることができるのではないかと。その次に市内にはこのようなボランティア活動があるということ、小・中学生でも出来るボランティアがあり、人の役に立つことは嬉しいことなんだということ載せてはどうか。そして次のアクションにつながる紙面になるとよい。
- 【事務局】 今後のスケジュールについては運営委員会だけではタイトになってしまうため運営委員会とは別にご協力いただきたい。(3名の委員にご協力いただけることとなる。)
- 【委員】 紙面の内容はとても良いと思う。体裁については A3 の紙に切り込みを入れ、折りたたむと冊子になるような工夫があると特別感があり子供たちは喜ぶのではないかと。
- 【副委員長】 保存版、自分にとってのマニュアル本になるようなものを作るとよい。

## (2) 西東京ボランティア・市民活動センター令和3年度下半期事業について

- 【事務局】 「ボランティアはじめて講座」「軒下ふれあいバザー」「登録ボランティアの懇談会」の3つの行事がある。12月に予定している「軒下ふれあいバザー」は場所を提供してもらうマックスバリュ芝久保店の店長と話し合いを行っている。参加団体を例年の2割削減とブースの間隔をあける、飲食の販売は禁止、リサイクル品の販売は個包装し、品物を手に取って見ることなどを禁止するなどコロナの影響で条件が厳しくなっている。「ボランティアはじめて講座」なども今後の状況を見ながらすすめていきたいと考えている。
- 【委員長】 現状と今後について、ご意見ご質問はありますか。無いようですが、これは継続的な議論ということによろしいか。

## 4. そ の 他

### ● 西東京ボランティア・市民活動センター

#### 西東京市民協働推進センターゆめこらぼ 一体的運営について

- 【事務局】 資料参照。運営委員会では今年の1月にお話しさせていただいている。委員の皆さんからいただいた意見を踏まえ職員間でも検討し、提案書を作成した。最後のページに一体的運営のイメージを載せてある。ボランティアセンター、ゆめこらぼ共に個別の事業についてはそれぞれ運営していくことを市の担当課に伝えた。共通できる事業については令和4年度より連携して行っていくと考えている。大規模な災害が起こった場合、災害ボランティアセンターを社会福祉協議会に設置することが決まっている。団体を支援しているゆめこらぼにも協力してもらうことになる。一体的運営とは二つのセンターの事業を連動し運営していくことにより支援基盤の強化、拡充を図ることを目的としている。ボランティアセンターは個人から入ってくるものが主となっている。団体の支援を行っているゆめこらぼにつなげていけるよう継続して支援していければ良いと考えている。目標達成までのステップとして次の3つがある。

1. 連携、協働
2. 地域課題の解決を目的とした市民活動情報の共有
3. 事務所、活動場所の統一化により事業の一元管理化を図る

ゆめこらぼの運営は令和6年度まで社会福祉協議会が受託している。それまでに連携、強

化を図っていきたいと考えている。

○一体的運営に向けた提案書を読み上げ説明を終える。

【副委員長】 ボランティアセンターは個人が登録し、ゆめこらぼは NPO や市民活動団体が登録しバックアップしていると認識していた。ボランティアセンターは団体登録ではなく把握しているだけということですね。

【事務局】 ボランティアセンターは団体の情報をデータ化し把握しているが登録団体として何かを行うわけではない。ボランティアセンターの個人登録、ゆめこらぼの団体登録は今後もそれぞれ管理していくことについては令和4年度以降に検討していく。

【委員長】 第3回運営委員会を終了いたします。

次回運営委員会開催日程について

■日時:令和3年 11 月 9 日(火) 18時30分～20時00分

■会場:田無総合福祉センター 3階 第1会議室

○ Zoom 開催の場合18時～19時30分とする

## 配布資料

- |      |  |
|------|--|
| 資料 1 | : 西東京ボランティア・市民活動センター事業月次報告(令和3年7月・8月)                    |
| 資料 2 | : コーディネート状況等月次報告表(令和3年8月31日現在)                           |
| 資料 3 | : コーディネート実績表(令和3年7月・8月)                                  |
| 資料 4 | : 西東京ボランティア・市民活動センター業務予定(令和3年9月・10月)                     |
| 資料 5 | : 夏!体験ボランティア西東京 2021 報告                                  |
| 資料 6 | : ボランティアのつどいについて   |
| 資料 7 | : 西東京ボランティア・市民活動センター令和3年度下半期事業について                       |
| 資料 8 | : 西東京ボランティア・市民活動センター<br>西東京市市民協働推進センターゆめこらぼ 一体的運営に向けた提案書 |